

回想法センター・創り・7月号

平成28年 6月24日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
e-mail pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
h p www.piakaiso.sakura.ne.jp

認知症と上手に暮らしたら

年老いても親は親

アルツハイマー型認知症の親が最近よく歌うドレミの歌が紹介されていた新聞記事に目が留まりました。「ドーはドーナツのド」「レはレモンのレ」「ファはファイトのファ」「シは幸せよ」「さあ歌いましょう」とあつという間に終わる「ドレミの歌」です。聴く人にはびっくりの歌でも、記憶が消えてゆく人の心の世界はどんな世界なのだろうか。

私の母も、「頭の中がからっぽになってしまった。何も覚えていない」と泣き出すことがありました。そんな時は「秘書の私が覚えているから大丈夫。分らないときは何時でも私に聞いて」と言う。「あんたがいてくれてよかった」と笑顔が戻りました。記憶が消えることは、私たちには想像もつかない恐怖であり苦しみだと思えます。時代の変化についてこれないお年寄りを私たちは「しっかりしろよ」と追い詰めてはいないでしょうか。年老いて出来ないことが増えても出来ることはあります。人に元気を与えることも出来るのです。

寝たきりになった母ですが、今でも私が出かけるときは「気をつけて行きなさい。家の事は私がいるから心配しなくていいから」と、私を気遣って送り出してくれます。年老いても親は親。親子の関係は永遠のようです。



7月の予定

- * **おしゃべりサロン** 2時～4時
開催日 7月11日(月) 25日(月)
開催場所 龍ヶ崎市役所地下食堂
- * **認知症家族会あおぞら** 1時30分～15時
開催日 7月6日(水) 8月3日(水)
開催場所 龍ヶ崎市民活動センター・多目的室
- * **笑顔屋** 7月20日 10時30分～12時 龍ヶ崎ショッピングセンター**リブラ** 1階

親の教えは永遠

地方から東京へ出てきて一生懸命に働き、日本の高度成長を必死に支えた世代が一斉に老いています。急増する高齢者のうち夫婦または単身世帯の割合も5割を超えています。こうなることが予想されていたのに国の政策が追いついていません。支えるお金も人も足りないで大騒ぎをしています。しかし、老いれば出来ないことが増え「自分はもうようなない人」と生きる気力も失いがちです。お年寄りの抱える悩みや不安に私たちがもっと目を向けるべきではと思っています。

私たちは、自分を認めさせようとする。そうしなければ負けてしまうのが今の競争社会です。役に立つ相手は認めても役立たずは切り捨てて生きているでは当たり前のことです。でも、自分も年を取れば、その当たり前の世界では生きてゆけなくなるのです。

目の前にいる認知症のお年寄りは何年後かの自分の姿なのです。お年寄りは「人の役に立っている」と体感できたら元気になれるのです。お年寄りと共に過ごし、話し、聞き、触れる、褒める、感謝することを伝えられたら生きる力を取り戻せるのです。親は幾つになっても、励まし気遣うことが出来る優しい親なのです。親の教えは永遠だと思っています。